

私たちは
防災士です

熊本地震で活躍



山本明香さん
(大津町 引水)

地域住民同士の交流で防災力を高めたい

東日本大震災を埼玉県で経験し、実家のある大津町へ移住。町の防災士育成補助と地元区長の勧めもあり、防災意識を高める良い機会だと思って防災士養成講座を受けました。熊本地震では主に避難所運営に関わりました。防災士の知識を生かし、発災直後には人が押し寄せることを予測。いち早く避難所に駆けつけ、けが人の応急処置や行政との連絡などに携わりました。そのとき、助け合う人々の姿を見て地域住民同士の交流の大切さを実感したんです。日ごろから声かけや顔の

見えるお付き合いができていますと、子どもを見てもらったり、体調が悪いときに助けてもらったり、支援の輪が自然に広がっていくことが分かりました。こうした共助の大切さを啓発していきたいです。災害はいつ起こるか分かりません。もし日中に災害が起こったとき、対処できるのは家にいることが多い女性や子どもたちです。女性や子どもたちにも楽しみながら簡単にできる防災訓練などを企画して、町の防災力を高めていきたいと思っています。

災害に備える地域へ

熊本地震では隣の人の安否も分からず、どう地域で連携していくべきか勉強したいと考え防災士になりました。2月の養成講座では、町内で私を含め11人の防災士が誕生。講座では、私たち避難者が避難所を運営することで不足品の迅速な把握や相互扶助の活動が促され、早い復興につながることを学びました。今後は学んだことを伝えるために自助・共助の重要性を盛り込んだミニ講習などを地域で行い、災害に備える地域社会づくりに貢献していきたいです。

新人防災士



合志啓恵さん
(菊陽町)

防災士とは

社会のさまざまな場で防災力を高める活動が期待される、地域の防災リーダーです。十分な防災意識と防災に関する一定の知識・技能を修得した人を日本防災士機構が認証します。大津町では2014年に防災士育成補助を行い46人の新たな防災士が誕生しました。熊本地震では山本明香さんをはじめ、多くの防災士が地域の避難所の運営や防災活動を行いました。



防災ハンドブックを配布しました

3月中旬、各世帯に県の防災ハンドブックを配布しました。地震や風水害など災害から身を守る方法を確認しましょう。町役場仮庁舎でも配布しています。



大津町追悼・復興シンポジウム

- 日時 4月14日(金) 午後2時～
- 場所 町生涯学習センター文化ホール
- 内容
 - ・「復旧・復興プラン」の進捗状況発表
 - ・地震に関する講演、熊本地震体験談講話
- 問い合わせ 役場総務課 地域安全係 ☎096(293)3111



一人一人が防災の担い手

県民アンケートでは「地域の人たちの優しさを感じ続けた」「人と人とのつながりの重要性を感じた」などの意見がありました。備えだけでなく、被災者同士で支え合うことの大切さも多くの人が感じています。隣近所でありさつを交わす、コミュニティに積極的に参加することも、自分や家族を守る第一歩。専門的な知識を身に付け地域に貢献したいときは、防災士という選択肢もあります。災害時は、私たち一人一人が助け、助けられる。防災の担

い手になるという意識を持つことが大切なのかもしれません。「備蓄は一見自助ですが、実は共助でもあるんです。なぜなら、自助できる人が増えることで、もっと支援が必要とされる人々に人手や物資が行き渡るようになるから」と柳原さんは話します。自分を助けることが人助けになる。そう考えると、家庭の備えがより有意義になり、やりがいも増してきます。まずは無理なく続けられることから始めてみませんか。それがまちの防災力を高めることにつながっていくはずですよ。

完璧じゃなくてもいい——ママ目線の「無理なく楽しむ防災術とは

東日本大震災と熊本地震を経験した防災士の柳原志保さんに、家庭でできる防災について話を聴きました。



歌うママ防災士
柳原志保さん

Profile やなぎはら・しほ
2011年に東日本大震災で被災し、2人の息子・母と2週間の避難所生活を強いられる。2012年に熊本県和水町へ移住。2014年に防災士の資格を取得し、日ごろからできる防災について県内各地で講演活動を行う。

「これならできる」を続ける

「防災」と聞くと固く構えたり、男性が取り組むものと考えたりする人もいるかもしれませんが。しかし、周りの人の変化や、妊婦など少数の声に気付く女性の感性は避難生活で大きな役割を果たします。日常生活の中に防災につながることはたくさんあるので、女性・ママの皆さんにも興味を持って積極的に取り組んでほしいです。

ただ、完璧を目指すとは疲れてしまいます。ベストではなく、あなたにとってのベターを探してください。防災や備えに正解はありません。「これならできる」という備えを家族で楽しみながら無理なく続けることが大切です。

「日常備蓄」を楽しむ

私がお勧めするのは、楽しみながら続けられる「日常備蓄」です。例えば、①特売日に缶詰やカップ麺、水、子ど

乗り越えるために知恵を絞る

災害時の集合場所や連絡方法など、家族で決めておくことも大切です。私の場合は自宅が古く壊れる恐れがあるので、一緒にいないときは家でなく公民館で待つように約束しています。笛をぶら下げた名札ケースに名前や住所、血液型などを書いたパーソナルカード(下)、家族の写真、公衆電話用の10円玉を入れ、家族を探す手掛かりになるよう備えています。離乳食やアレルギー食、オムツなど一部の人が使わないもの、子どもの靴などサイズのあるもの、ストレスを

和らげるための好物など、避難所にならざるを蓄える工夫も必要です。次に起こる災害では熊本地震のときのようにSNSで物資を求めたり、遠出をすれば物が買えたりできるとは限りません。買い物用ビニール袋とキッチンペーパーで作るオムツ、新聞紙で作るスリッパ、ツナ缶とティッシュペーパーで作るランプ、粉ミルク代わりの砂糖水など、今あるものを工夫して使うなど知恵を絞ることが家族を守ることに繋がります。親の不安は子どもに伝わるので、いざというときに慌てないよう備えておきたいですね。



1 大津町で開催された防災講演会。パーソナルカードのメリットを説明
2 3 新聞紙で即席スリッパ作りを実践。母親目線による防災の取り組みに共感する人は男女問わず多い

柳原さん監修 パーソナルカード

枠線に沿って切り取り、家族の写真、保険証のコピー、10円玉、笛などと一緒に、玄関先など持ち出しやすく家族が分かる場所に備えましょう。

☆ ふりがな 名前	☆ アレルギーや普段使っている薬の名前
☆ 住所	☆ 家族の名前・連絡先
☆ 生年月日	☆ 遠くの親戚などの名前・連絡先
☆ 血液型	